

広域観光に関する提言

～福井県のあらたな広域観光の創生のために～

平成 7 年 3 月

福井県は自然に恵まれ、歴史、文化、伝統に関わる観光資源が数多く存在している。

しかしながら、観光地、観光資源の整備が充分でないこともあって、本県の活性化にこれらが十二分に活用されていない状況である。また、今日、県内外から年間 2600 万人の観光客入込数があるが、そのうち日帰り・通過客は 8 割をこえており、滞在型観光を目指す上で宿泊施設を中心とする関連施設の整備、受け入れ態勢、本県のイメージアップや広報宣伝のあり方が大きな課題になっている。もとより、観光産業（事業）の振興は、交通、都市基盤の整備、伝統産業、地場産業の育成、文化水準の向上、住民の地域帰属意識や連帯意識の高揚に深く関係するもので、その波及効果は計りしれないものがある。

ところで本県は近畿圏および中部圏を背後にし、環日本海経済交流圏構想の日本海側の玄関口としての機能が期待され、また、関西国際空港の開港等近畿圏の急速な国際化の進展の中にあって、本県自体、その効果を積極的に取り込むことが求められている。

こうした状況の中で、本県活性化の一手段として観光事業の振興を掲げ、既存観光資源の見直しと整備の促進、新しい観光の創出、広域観光ルートの設定、関連施設等の充実、さらには県民の郷土愛に満ちた、文化、伝統に対する関心を高めることなどによって、観光産業の発展を図ることは極めて重要であると考えます。

以上の観点から、本県観光の現状と課題について調査研究を行ってきたが、「新たな観光の創生のために」以下事項を提言するものである。これらの提言課題は、各団体において以前から指摘されたいわば、継続中の課題が含まれるが、この際、実現に向け県民あげて積極的に取り組むよう期待したい。

I. 福井のイメージアップと受入れ体制に関する事項

1. 全県にわたる観光コンセプトの明確化

県のイメージアップ事業の継続的な実施によって、全国における本県のイメージは徐々に高まりつつある。今後とも、より効果的な事業を開発しながら続けていく必要がある。一方、県はじめ各市町村の観光行政において、統一された観光コンセプトがなく相乗の効果を生み出せていない。これからの観光には、他にはないその土地独自の歴史、文化、伝統に根ざしたコンセプトが求められるが、本県の場合、例えば、歴史、文学、宗教、自然、食文化等を生かしたスポーツ・レジャー、伝統産業など独自の観光資源があり、これまでの「見る観光」に加えて「体験する観光」にも対応した観光アピールが必要である。統一した観光コンセプトをもってイメージアップを図れば、より大きな効果があげられると考える。

2. 観光地における雰囲気づくりの重要性

観光地は観光客がその地域のもつ歴史・文化に直接ふれることのできる「場」であり、この視点にたつて、周辺景観と観光地が調和のとれた雰囲気づくりのための整備をすすめてゆくべきである。

3. 観光関連従事者の意識の高揚

ホテル、旅館、バス、タクシー、土産品店、飲食店など観光関連事業従事者の県内観光地、文化財、史跡等に関する知識を高める必要がある。この知識の程度や接客サービスのよしあしによって観光客へのイメージは大きく変わることはいうまでもなく、教育訓練等によって徹底を図る必要がある。

このほか、県民の歴史、文化に対する認識を高め、小・中学校、高等学校における郷土歴史教育や体験の充実、一般企業あるいは団体グループ、生涯学習機関等における郷土歴史に関する学習気運の高まりを醸成する必要がある。

4. 「かたりべ」認定制度、観光ボランティア登録制度の創設

観光案内の利便性とイメージアップを図るため、本県独自の「かたりべ」認定制度および観光ボランティア制度の創設を提案したい。「かた

りべ」は観光関連事業従事者等観光案内に精通している者を中心に育成する。また、観光ボランティアは、主として余暇の有効活用と趣味の活用をねらいとするもので県民の生涯学習の気運を向上させる点でも効果がある。

Ⅱ．観光資源、アクセスの整備に関する事項

1．広域観光ルート設定の基本理念

本県の観光は「通過型」として常に問題にされる。このため、全県の観光コンセプトをもとに広域観光ルートを設定し、これを広くPRする必要がある。福井県には、広域観光ルートのテーマとなる「物語」が豊富に存在しており、ルート設定にあたっては、福井県の特徴を生かした面白味のある物語をコンセプトとして中心におき、観光客に感動を与え、親しまれるルートを設定していく必要がある。

2．広域観光ルート上の目玉づくり

広域観光ルートに、核となる地点を策定しその地点の集中的な整備、あるいはイベントを創造することが、ルートのアクセント付けとして重要なことである。

特に、イベントは観光客を引きつけ住民との交流を図る手段として有効である。地域に密着した面白い、楽しい、おいしい体験イベントを仕掛けることも検討すべきである。

3．観光案内板・道標等の整備

観光地への交通網の整備推進はもとより、観光地へ誘導する案内板、道標等の増設、整備が必要である。特に区域観光ルートを設定した観光客の域内循環・迂回度（滞在時間）を高めるために、広域的案内の掲示が必要である。また、道標そのものがシンボルとして観光資源そのものになる可能性があり、統一したデザインを考えることが効果的である。

また、わかりやすいルートマップの作成や、それらを駅やインターチェンジ等で気軽に手に入るような案内所、案内システムも必要である。

それとあわせて、外国人観光客の利便性を図るため、観光案内板、道標、ルートマップ等の英語化、中国語化、韓国語化の配慮も必要であろう。

4. 宿泊施設の整備

宿泊施設は、滞在型観光をめざす時、その基本的基盤整備といえる。観光地や地域がいかに素晴らしいものであっても、設備が不十分であったり宿泊料金の選択の幅がせまければ、滞在型観光や交流人口の増加は望むべくもない。以上の点に留意して、客の求めるサービスに対応した幅広い宿泊料金の設定や、魅力ある宿泊設備の整備が必要である。

また、最近外国人客の地方文化への関心が高まり、大阪、神戸、京都のアフターコンベンションとしてあるいは姉妹都市関係の交流として県内への流入増加が期待されるがこれらに対応した外国人向けの宿泊施設を充実する必要がある。

Ⅲ. 提言事項の具現化に向けて

1. 観光事業のプロデュース機能の強化

現在、観光事業は地方自治体、観光協会、業界団体等がそれぞれ実施しているが、全県下にわたる共通のコンセプトに基づいた観光事業を実施していくためには、企画演出する組織が必要である。既存組織の観光トータルプロデュース機能強化をすすめ、一般県民を巻き込んだ福井県観光の盛り上げを図るべきである。

2. 短期・中長期計画に基づく強力な推進

提言事項あるいは本報告書で指摘した課題の中で、当面の課題として短期的に実現をめざすものと中長期計画に基づいて実現を見るものと区別して、実行するべきである。特に短期的に行うべきものとして、「かたりべ」認定制度、「道するべ」整備、「広域観光ルート」の整備等があげられるが、これらの実施にあたっては広域的視点にたった統一的コンセプトのもとで推進していくことが必要である。

また、当面の課題、実施目標として、広域観光事業推進の観点から、各地方自治体観光行政の連携強化、共同宣伝等の共同歩調を提案したい。

3. 共通目標に向けた役割・機能の分担

観光地づくりは、地域づくり・まちづくりであり、観光産業の振興が地域活性化につながるとの共通の認識から、地方自治体、業界団体、関連業界、県民市民がそれぞれの立場で役割と機能を果たしていく必要がある。

a. 県及び県観光連盟

福井県観光のトータルプロデューサーとしての機能強化をすすめ、イメージアップ事業の継続的、効果的な実施をさらに押し進める。また、統一のコンセプトに基づいた広域にわたる観光のあり方、広域観光ルートの設定を考える。

さらに学校教育における郷土歴史の充実、歴史文化の体験学習を活発化させる。

b. 市町村および各観光協会

各行政間あるいは各観光協会との連携を強化し、将来的には広域観光ルートをめざして共同の催事、あるいは観光事業の共同歩調、広報宣伝の共同化など観光客の循環・迂回度を高める工夫を行う。

また、域内の観光資源の顕彰のため、地域観光ボランティア登録制度の創設と観光地の整備を図る。

c. 商工会議所、商工会等経済団体

行政一体となってアクセス等の基盤整備を推進する。また、組織づくり、観光関連事業を対象として、接客マナー、文化などの教養に関する講習会、研修会を開催し、中立、信頼性の立場から「かたりべ」の育成、認定制度を連用する。

d. 観光関連事業者、一般企業

施設設備の改善を図るとともに、従業員教育の徹底を図る。また、一般企業においても、社員の教養知識としての郷土史、文化などの学習を支援する。

e. 公共交通機関

J Rの列車の駅舎はその地域の顔であり、列車できた観光客に対しその地域のイメージを決定付ける重要な要素となっている。ゆえに、駅舎を改築するに際しては地域の特徴を表しかつ周辺景観に十分留意して実施する。また、J R米原駅は、北陸、特に福井県への玄関口として重要な地位を占めているが、その駅舎は十分な施設とはいえない。福井県のイメージアップのためにも、整備を図る必要がある。

f. 一般県民

観光地づくりとは、まちづくり・地域おこしである。そこに住んでいる人達が誇りを持ってない町には、どんなに有名な観光施設があろうと人はこなくなる。

郷土の史跡、文化財あるいは生活慣習に関心を持ち、地域帰属、連帯意識を高め、郷土に誇りと愛着を持ち、また、観光客との積極的な交流がおこなえる地域活動に参加し、福井県の観光の県民レベルでの盛り上げに協力する。